

眼科

京大眼科における初期研修では、病棟での診療業務を通じて、眼科医としての基本的な知識および診察・治療手技を取得することを目標とします。また、患者からの病歴聴取や、上級医・病棟看護師・視能訓練士などの医療スタッフを交えたチーム医療への参加を通じて、的確な意思伝達や良好な人間関係構築のためのコミュニケーション力を身につけて頂きます。

原則として後期研修医・医員と行動を共にし、また担当する受け持ち患者ごとに上級医が指導に当たります。初期研修では選択期間に個人差がありますので、以下の目標を基本としながら、選択期間に応じたきめ細かな指導をうけていただく体制をとっています。

■初期研修1年目

1年次には、将来希望科として眼科を最長3ヵ月選択することができます。（特別コース）

■初期研修2年目

2年次には、眼科を最長で11ヶ月間選択することができます。

A. 基本的研修目標

1. 主要な眼科疾患について学習し、診断能力と治療法を選択する力を養うこと。
2. 眼科一般診療に必要な基本的手技を習得すること。
3. 代表的な眼科手術の理論と実際について学ぶこと。
4. 主に豚眼実習を通じて、基本的な眼科手術実技を経験すること。

B. 研修体制

1. 病棟研修

入院患者の受け持ち医となって、指導医のもとで診察、検査を自ら行い、研修期間中に入院患者の眼科診療が一通り行えるようにします。指導医のもとで、必要な処置を行うこともあります。

2. 手術研修

手術室において、主に受け持ち患者の眼科手術介助を行って、切開・縫合などの手術基本実技と各手術機器について学びます。豚眼を用いた眼科手術を練習できる設備も常設されており、切開・縫合や白内障手術などの基本的手技について豚眼を用いて実習することも可能です。

3. 外来研修

外来において上級医の診療を見学・補佐することで、外来診療における病歴聴取や検査オーダーから診断までの流れを学びます。また、指導医のもとで、実際に外来患者の診療を行うこともあります。同時に種々の眼科検査法、投薬法、眼鏡・コンタクトレンズの処方等を習得します。

4. カンファレンスへの参加

毎週2回の術前症例検討会に参加して、自分の受け持ち患者についてプレゼンテーションを行います。また各専門外来のカンファレンスに参加し、蛍光眼底造影（FAおよびIA）、光干渉網膜断層撮影、超音波生体顕微鏡撮影などの画像診断について学び、最新の診断方法・治療法について習熟します。抄読会に参加して最新の英文論文に慣れ親しみます。

5. 年十数回、指導医より各眼疾患について講義を受けて、専門的知識を身につけると同時に、最新の知見・治療法について学びます。

6. 希望者には、国内外の眼科学会および研究会において学術発表の機会を設け、併せて学術論文の執筆をして頂きます。

C 到達目標

1. 一般的診察法

1) 眼科診療における一般的な診察方法、検査法、治療法を患者および家族に適切に説明し、インフォームドコンセントをとれるようになる。

2) 眼科医として適切な現病歴聴取およびカルテ記載ができるようになる。

2. 眼科基本的検査法の習得

受け持ち患者に施行される眼科検査法を各々理解し、実施およびその解釈ができるようになる。

3. 患者の管理

1) 眼科領域における各種薬物の薬効および使用法に習熟する。

2) 指導医の指導のもとに、術後投薬および処置を指示できるようになる。

4. 通常診療における眼科的処置の理解

以下の基本的な眼科処置について、内容および適応を理解できるようになる。

点眼法、洗眼法、薬物の注射（結膜下、テノン嚢下、球後注射）、前房穿刺、涙管ブジー、涙嚢洗浄、睫毛抜去、角膜異物除去

5. 眼科手術の基本手技の理解

以下の基本的な眼科手術および関連した手技についての知識・理解を深める。

1) 洗顔および消毒法

2) 各種眼科手術機械の使用法

3) レーザー眼科手術（網膜レーザー凝固、毛様体レーザー凝固、レーザー虹彩切開術、後発白内障YAGレーザー切開術など）

4) 外眼部手術（麦粒腫切開、霰粒腫摘出術、眼瞼内反症手術、翼状片手術、斜視手術）

5) 白内障手術